

名勝・猿橋。もう何百年か、人々が汗を流し、知恵をしぼって今日まで守ってきた天下の奇橋。昭和のたくみ、たちの手で、百三十年前の江戸の姿が再現される日も、そう遠いことではない。

甲州街道の橋としての役目を終えたいまも、猿橋はまだレッキとした公道(市道)の橋。だが、大月市は今回の架け替えを機に純粋な、名勝の橋、と位置付け、人間以外の通行を規制する意向だ。

同じ名勝でも猿橋橋(山口県岩国市)の場合、観光客などから入橋料、つまり橋の渡り賃(大人二人百円)を取り、橋の管理、補修費にあてている。日中は今回が初の架け替えで、通常の管理費の面倒を見ない文化橋は、えんきょうの町の財産

財政のものでは、それもアイディアだが、大月市教委は「昔から一般の道路で、橋料をとってたなんて話はないので、有料化は消極的。」と、ひびくは市の民俗資料館を作り、そこに猿橋コーナーを設け

えんきょうの町

⑥

民俗資料館作り 猿橋コーナーも

江戸の姿再現に夢



解体、保管されている腐材の山

る。民俗資料館は、今年度ようやく調査がつき、建設準備にはいったばかりだが、名勝・猿橋を知る施設がまったくなかっただけに、市民や観光客には喜ばれそう。

もつとは、はく大な市費を投じた架け替えの足跡を向うか。今回もこれを踏襲する考えだ。「さ、それはいく一部で、腐材の中には江戸の「もの」と思われるクリ材などもある。払い下けてもらって、倉庫にストックして、せめて「念のため」に記念にでもとじたいかな。もつとも「わは、私の勝手な夢ですがね」。市教育長の大沢良作さんと話を交わした。(おわり)